

を便利にする、生活を快適にするって動物にできない様々なことさんざんやってきた。

その結果、衣服がないと、家がなないと、水道がないと、電気がないと、トイレがないと、暖房がないと生活できないドーブツになっちゃった。イノシシでるからって簡単に田畑動かせない、柵作るにはあれも要る、これも買わなくちゃって思う、すぐに自分でやればすむことでも、行政にやらせようなんて考える。

実はメツセージを受け取ってもなかなか行動を起こさないのが人間。理論や方法を説明してもなかなか納得しない、納得はしても動かないって困った動物。

「とりあえず文章のメツセージだけでも送るか、読んでくれた人の中で一人でも二人でも何かやり始めてくれる人いればいいかあ」って引き受けるのがこの連載。

ところが、速攻で相手を動かす雅ねえも真っ青のメツセージ発信し続けているおぼちゃんたちがいる。

あんたもやりんさい

鳥根県美郷町吾郷地区婦人会のおぼちゃんたち。

舞台は15年来獣害対策の実践学習を続けている元耕作放棄園、名付けて青空サロン。「悪いのは動物じゃなくて餌付けしてる畑、畑変えなきゃ被害はとまらない、カキもキウイもミカンもこんな風に仕立てたら柵からはみ出さんし脚立も要らん、これは獣害に強いカボチャとナスの仕立て方、アツ、サツマイモはこうやって植えればサルもイノシシも芋は食えん、この柵なんてほとんどそこいらへんで集めた廃材で作っとるけど、理にかなった立て方したらよう効いとる、私はもう80歳じゃけど毎日畑が楽しい」って笑顔で説明してる。

目の前の柵と実際に守ってる果樹や野菜の実物が強烈なメツセージ送ってる。視察仕掛け人の行政担当者から「みんな、帰りのバスの中で、自分たちもあれやろう、これもやろうって、そりゃあもう、盛り上がり過ぎて、帰ったら早速始めるそうです」ってなんという即効性。

曲集落に楽しみの予感

ところで大崎町の曲集落ってご存知かしら？

今年から大崎町で始まった県主催の獣害対策講習会。何かと便宜を図っていただいてる町役場に相談した。せっかく大崎町で研修やるんだから、受講生が自由に実習できる畑、快くお貸しいただける方ないかしらって？早速笑顔のすてきな前公民館長の徳満義朗さんが一肌脱いでいい方紹介して下さいました。「うちの畑、電気柵を設置する実習とか好きに使ってくれていいよ、他の人の参考になるなら展示したままでいい」って言って下さったのは山下睦男さん。実習には近所のおばさんたちにも声かけしてくれました。

初回、電気柵設置実習終ったあと、「アツ畑の横の灌木とか大きなソテツ、動物の潜み場になるんですよ！」って話して帰った。2回目は収穫しやすいウメやカキへの樹形改善実習。アツ、畑のひそみ場消えてるー、さっそく切ってくれてる！

徳満さんから山下さんからも、地域で獣害なんとかしたいって思いがひしひし。曲集落がメツセージ発信拠点になりそうな予感むくむく。



(P7のまちの話題関連記事もご覧ください)

次回のテーマは『曲集落の夢』だよ～



講師紹介 井上 雅央氏

1949年、奈良県出身。愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士(農学)。元農研機構 近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長。退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。著書に、『これならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハダニ』『女性がすれはずんずん進む獣害対策』(いずれも農文協)など多数。

